

イスラ ム第三の柱：定め^の喜

:

明:

イスラ ム第三の柱である定め^の喜 “ザカ ” について。またザカ と慈善行 の精神的^の重要性、そして金 に するイスラ ム的 。

目:[事崇 行 とその 実践の五ヶ条」 とその他の崇 行](#)

より: IslamReligion.com

日 1 Dec 2009

集日 21 Dec 2009

イスラ ムは慈善行 を推 するだけでなく、 的に余裕のある全てのムスリムの 行 としてい
ます。必要としている人たちに慈善を施すことはムスリムとしての特性の一部であり
、イスラ ム信仰の 践における五柱の一つです“???”

とは“定め^の喜 ” のことであり、神によって富を授けられた者たちは、困 している共
同体の一 に して 任を わなくてはなりません。普遍的慈 心に欠ける一部の人々は利子をつ
けてお金を し出し、富を り め みますが、イスラ ムの教えはこういった姿 に真っ向か
ら反 します。イスラ ムは富の分配と、人々が自立して社会における生 的な一 になるこ
とを推 するのです。

アラビア の??は、直 すれば “化” といった意味です。これは???

が人々の心を 欲さから 化すると なされているからです。富への は自然なものであり、
人が自分の富を他人に分け与えることには、 かなる神への信仰が必要とされます。???

は金 、 、家畜、 物、そして商用品といった、定められた の から支 われなければなりま
せん。これらの の をある一定の において丸一年 所有すると、年 その2.5%の を寄与とし
て要求されます。

人と集の である礼と同じように、
はムスリムの崇行と神への感を困者の救という形で体します。イスラムでは全てのものの真の所有者は人ではなく神であるとするため、富ゆえにくこと、そしてそれによって名声を高めようとするような姿は咎められるのです。なる富の蓄は、神の御前では何らの意味もありません。富はそれ自体では、世と来世において人を益することはないのです。イスラムは自分自身と他人のどちらの必要をもたすために、富を稼ぐ意を持つよう教えます。

言者は言われました：「人は言う：“私の富が！私の富が！”と。あなたの富は、施すことにより蓄えられるのである。それでもあなたは富をめぐみ、衣服や食事にそれを使い果たすというのか？

イスラムにおける富の概念は、神からの与です。神は人に富を授け、そしてその内の一部を者のものとし、彼らがそこから分け前を受け取る利を与えたのです???

は、神にこそ全ての所有が属することをムスリムに思い出させます。人々は神によって富を委されているのみであり、???

はムスリムを富へのから解放すべく定められたのです。神は???

によって支われたを必要としているではなく、またかれがそれを受け取るのでもありません。神はいかなるの依存をも超越しているからです。神はその限の慈により???

が神の名において支われることのみを条件に、それにするを束めるのです。私たちは受取人からいかなる世俗的返りをも期待したり、要求したり、また施しによる名声を目的にしたりすべきでもありません。そして施す相手に劣等感を抱かせたり、人から援助されることを思い出させることによってその感情をつけたりしてはならないのです。

???

として施されたは、特定の事柄にしてのみ使用されます。クルアーン（9：60）に明されているように、イスラム法では施しは者、孤、未亡人やその他の困者、そして奴や者を自由にするために使用されなければならないと定されています??

とはムスリム社会における社会保障制度として、1400年前から能していたのです。

ユダヤ教とキリスト教の典の中では、奴の解放が崇行のレベルにまで高まり、またその行が称されることもありませんでした。に世界宗教の中でも、信仰者にして奴への援助による自立を促しつつ、彼らの解放を崇行（もし神のご悦を得る意であれば）にまで昇させる教えは、イスラムの他にをないのです。

去にはカリフ制度の元で、国家が???

のと分配の役割を担っていました。在のムスリム世界ではごく限られた任を果たす一部の国々以外は、???

は人の任に委ねられています。また非イスラム地域に住む大半のムスリムたちは慈善体やモスク、またはしい人々に直接手渡すことによつて??

を配分しています。必要なは宗教行事や募金活などによつて集されるわけではありませんが、せいぜいモスク内にその分配を代理人に委するための募金箱が置されるくらいです。また???

以外の任意の喜においては、自らの意を神のみに向けてなものとするために、人目を忍んで行ったり、あるいは秘密に施すことがより良いとされています。

クルアーンとハディース（言者ムハンマドの言行集）においては同に、困者のための???

という任意の喜もされています。クルアーンはえる者への食事の施しや衣服を所有しない者への寄与、困者の救をしています。人が他人を助ければ助けるほど神はその者をお助けになり、また他人に与えれば与えるほど、神もその者にお与えになるのです。そして人は他者をうことによつて、自らにする神の扶を感じる事が出来るのです。

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/46>

著作 2006-2015 断を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断を禁じます。